



2023協約改訂を全組合員で闘おう！シリーズ③

「そのような考えはない」は聞き飽きた！ 会社は社員のために努力を惜しむな！ 2023年度労働協約改訂第2回団交

本部は本日、2023年度労働協約改訂及び労働条件改善の第2回団体交渉を開催しました。本部が提出した『申第4号』に対し、会社は回答を行いましたが、ほぼ全において「そのような考えはない」という不誠実な回答に終始しました。

会社の第一四半期の連結決算は、純利益905億円を計上しました。これは、社員の安全・安定輸送の努力の賜です。会社は、コロナ禍により収益が減少した際、賃金を切り下げました。JR東海労は会社の理論を認めてはいませんが、収益が向上すれば、賃金や労働条件は改善されて然るべきです。今回の回答を見る限り、労働条件を改善する気はないといえます。

今年の春闘では、JR東海のベースアップは世間相場を大きく下回る1,000円でした。世間相場に近づけるためには、大幅な手当増額しかありません。

会社がこれだけの収益をあげているにもかかわらず、労働条件が一向に改善されない最大の原因は、会社の言いなりになっている御用組合が存在しているからです。

「会社の言うことはごもっとも。労働条件改善は我慢します」と言ってさえいれば、一部の指導部はどんどん昇格していくのです。大多数の組合員は、退職するまで下積み生活を強要されているのです。

JR東海労は、このような賃金や昇格の差別が確立された制度を許さず、社員全体が利益を享受できる制度を目指して闘っていきます。

※次回の第3回団体交渉は、8月24日に開催します。